

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）にもっとも適切な語句を記入しなさい。

イスラーム教の創始者ムハンマドが632年に死去すると、イスラーム教徒の共同体であるウンマを率いる最高指導者たちの時代、すなわち正統カリフ時代が開始した。第2代の正統カリフである（ A ）の時代には、アラビア半島の外へのアラブ軍の征服活動がおおいに勢いづいた。ビザンツ帝国からエジプトやシリアを奪い、ササン朝を破ってイラクからイランへと軍を進め、メディナを中心としたイスラーム政権の支配領域は飛躍的に拡大していった。しかし、シリア総督に任じられたウマイヤ家のムアーウィヤは、第4代正統カリフのアリーに対して反旗をひるがえし、内乱の末、661年にイスラーム最初の世襲王朝であるウマイヤ朝を開いた。古くから栄える交易都市であったダマスカスを首都とするこの王朝は、やがて西はイベリア半島や北アフリカから東は北西インドへといたる巨大な「アラブ帝国」へと成長した。8世紀はじめには、ウマイヤ朝の将軍クタイバの積極的な遠征活動によって、アラブ人によるパミール高原以西のオアシス地帯の支配が成立した。こうして同王朝の領域は、（ B ）海に注ぎこむアム川の「向こう側の地」を意味するマー・ワラー・アンナフルへと広がり、中央アジアの「イスラーム時代」が始まったのである。

アッバース朝革命によってウマイヤ朝が倒れても、アラブ人は引き続き中央アジアを支配した。そして、成立直後のアッバース朝の軍は、751年、タラス河畔において（ C ）王朝の武将である高仙芝が率いる軍を破った。以後、中国の統一王朝である（ C ）の勢力は、西域から後退していくこととなった。875年、イラン系地主層に属したサーマーン家の当主は、アッバース朝カリフからパミール以西のオアシス地帯全域の支配権を与えられた。こうして、イラン系のイスラーム王朝であるサーマーン朝が事実上の独立を果たし、同王朝の支配下でブハラ、（ D ）、メルヴなどのオアシス諸都市が繁栄した。サーマーン朝の時代には、イラン系君主の下に、オアシス諸都市のイラン系定住民の経済的な力と草原地帯のトルコ系騎馬遊牧民の軍事力とがしっかりと結び付いた。サーマーン朝はグラームと呼ばれる軍事奴隷を積極的に活用して王朝の軍事基盤とし、アッバース朝のカリフ宮廷などにも奴隷を供給する重要な役割を担った。ガズナ朝の基礎を築いた君主アルプテギンもサーマーン朝のトルコ系軍事奴隷の出身であった。サーマーン朝はまた、ペルシア語を中心としたイラン・イスラーム文化の発展においても大きな役割を果たした。首都ブハラでは、アラビア文字を使用したいわゆる近世ペルシア語が発達し、ルーダキーのようなイラン系詩人たちが宮廷を中心に活躍した。また、9世紀はじめのブハラに生まれた学者のブハーリーは、スンナ派の（ E ）を集成した書物のなかで最高峰とされる『真正集』の編纂者であった。（ E ）とは、ムハンマドの言行であるスンナに関する伝承を意味し、聖典のコーランと共にイスラーム法の源泉をなすものである。そして、高度な医学理論と臨床的知見を集大成した『医学典範』の著者であり、イスラーム世界を代表する哲学者であるイブン＝シーナーもサーマーン朝末期のブハラ近郊の出身である。このよう

なサーマーン朝を10世紀の末に滅ぼしたカラ＝ハン朝は、トルコ系遊牧民の王朝であった。その時代には、パミール以東の地域、それに草原地帯の遊牧トルコ人たちのイスラーム化が進展する一方で、パミール以西の地域が徐々にトルコ人の住地となるという重要な変化もみられた。中央アジアの民族と宗教に注目するならば、カラ＝ハン朝の時代はひとつの大きな転換期であったと位置づけることができるだろう。

アム川下流域のホラズム地方は、ステップと砂漠に囲まれ、地理的な孤立傾向を示していたこともあり、イスラーム化以後も地方の君主がホラズム＝シャーという古い称号を名乗り続けていた。11世紀初頭、同地方はガズナ朝の支配下に入ったが、その後、同世紀末にはセルジューク朝の太守アヌシュ・テギンの治めるところとなり、その子孫が自立してホラズム＝シャー朝（ホラズム朝）が成立した。同王朝は、ガズナ朝にかわってアフガニスタンから北西インドへと勢力を広げていた（ F ）朝を1215年に滅ぼした。こうしてホラズム＝シャー朝は、中央アジア、イラン、アフガニスタンなどを支配下におく大国となったが、まもなくチンギス＝ハンが率いる強力なモンゴル軍の西方遠征によってあっけなく崩壊し、中心都市であった（ D ）の城壁や市街地は激しく破壊され、やがて廃墟と化した。この廃墟は現在アフラーシャーブの丘と呼ばれている。

こうして中央アジアはモンゴル帝国の一部となり、その後内紛の時代を経て14世紀初頭にはチンギス＝ハンの次男であったチャガタイの子孫による支配が確定した。このチャガタイ＝ハン国はまもなく東西に分裂し、1360年代に入ると再統一された。このような状況下には、トルコ化・イスラーム化したモンゴルのバルラス族出身のティムールが出現し、1370年にはマー・ワラー・アンナフルの支配権を握り、その後、度重なる遠征を敢行して西アジアへも大きく領土を広げた。ティムールは、当時（ G ）朝の支配下にあったシリアにまで進軍し、1401年にはダマスカスを占領した。この時、そこには、チュニス出身のイブン＝（ H ）が滞在していた。『世界史序説』において独自の歴史・経済・社会の理論を展開したこの大学者は、ティムールと会見し、この中央アジアの英傑に好印象をいだいたのである。ティムールはその翌年には、東アナトリアへと勢力を拡大していたオスマン朝の軍をアンカラの戦いで破り、スルタンのバヤジット1世を捕虜とする戦果をあげた。

ティムール朝の時代には、同王朝の2つの都、すなわち、ティムールによる建設事業と都市計画によって中央アジアの中心都市へと復興した（ D ）、それに、アフガニスタン北西部のオアシス都市の（ I ）を中心的な舞台として、芸術・建築・学術・文学など各分野で華麗な活動が展開された。ティムール朝の王子であったバーブルの回想録『バーブル・ナーマ』も、同王朝末期の高度な文学活動の流れのなかに位置づけられる。ティムール朝崩壊期の中央アジアでの軍事活動に困難を感じたバーブルは、1519年以降、アフガニスタンのカーブルを拠点として北インドへの侵入を繰り返した。そして、1526年、デリーの北方にある（ J ）における戦いでロディー朝の軍を破り、デリーやアグラを占領してムガル帝国を創設した。つまり、南アジア史上における最大のイスラーム国家であるムガル帝国は、ティムール朝の継承国家としての性格を帯びているのである。

Ⅱ 以下の（イ）～（ニ）は、いずれもアメリカ合衆国の歴史において重要な文書、演説、法律などの一部分である。これを読んで、（１）～（１０）の設問に答えなさい。

（イ）中国の危機的な情勢に直面して、現状の許す限り、合衆国の姿勢を明確にしておくことが適切であると考えられる。我々は1857年に我々が提案した政策を堅持する。すなわち、治外法権条約による権利のもとに保障されたあらゆる手段によって、また国際法によって、中国国民との平和、合法的通商の促進、我が市民の生命と財産の保護についての政策である。〔中略〕合衆国政府の政策は、中国に恒久的な安全と平和をもたらすであろう解決策を模索し、中国の領土的行政的独自性を保全し、条約や国際法によって友好的な列強に保障されるあらゆる権利を守り、中華帝国のあらゆる地域との平等で偏りのない交易という原則を、世界のために保障することである。

（１）これはアメリカ合衆国国務長官が、主要各国の合衆国大使館に発した文書である。この文書と、直前に発した２通の文書の内容は、合わせて何と呼ばれているか。

（２）この文書を発した国務長官は誰か。

（ロ）連邦議会は次のような法を制定してはならない。すなわち、国教を定め、宗教の自由な実践を禁止し、言論あるいは出版の自由を奪い、人民が平穏に集会を開いたり、人民が苦情を申し立て、その救済を求めて政府に請願する権利を奪う、そのような法を制定してはならない。

規律正しい民兵は、自由な国家の安全にとって必要であるから、人民が武器を保持し携帯する権利は侵害されてはならない。

平時においては、兵士を家屋の所有者の同意なくしていかなる家屋にも宿営させてはならないし、戦時においても、法によって規定された仕方によらずしては、兵士を宿営させてはならない。

（３）これらは、すでに作られていたある文書に、後で追加された文言の一部である。もとの文書とこれらの文言は総体として何か。その名称を答えなさい。

（４）これらの文言が追加されることになったもとの文書は、西暦何年に作られたか。

（５）もとの文書が作られた直後に、その文書を擁護する側と、それに反対する側の間で論争が巻き起こった。その文書を擁護する側は、自らを何と称したか。

（６）上記（５）の論争で、文書を擁護する側の指導的立場に立ち、合衆国財務長官も務めた人物は誰か。

(ハ) すべての人は、いかなる施設あるいは場所においても、人種、皮膚の色、宗教あるいは出身国を理由にした差別または分離から解放される権利を有する。そのような差別または分離が、州、州の機関、あるいは州の行政区画の法律、制定法、条例、規則、細則、あるいは命令によって求められ、あるいは求められることが企図されても、この権利はすべての人が有する。

(7) これは1964年に制定された法律の一部である。同名の法律は、1860年代から最近にかけて何度も制定されたが、1964年のこの法律が最も重要で有名である。この法律の名称は何か。

(8) この法律の制定を積極的に推進し、制定された時に大統領だった人物は誰か。

(ニ) 87年前に、我々の父祖たちは、自由という理念のもとにつくられ、すべての人は皆平等に造られているという命題に捧げられた新しい国民^{ネイション}を、この大陸に生み出しました。

現在我々は、大きな内戦を戦っていて、[戦争の結果によって]この国民^{ネイション}や、そのような理念のもとにつくられ、そのような命題に捧げられたいかなる国民^{ネイション}もが、長く持続するか否かが試されています。我々は今、この戦争の重大な戦場で一堂に会しています。

(9) これはある人物が行った短い演説の冒頭部分である。この人物は誰か。

(10) 演説中の「内戦」とは、この人物の立場から用いた語であり、相手側から見れば国際戦争だった。この戦争は、日本語では一般に何と呼ばれているか。

Ⅲ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）にもっとも適切な語句を入れなさい。また下線部①～⑤にかんする各設問に答えなさい。

激しい身体活動を伴う競技、あるいは娯楽を、私たちは何気なく「スポーツ」と呼んでいるが、オリンピックの柔道を見て、「これは横文字のスポーツとしての JUDO で、本来の柔道ではない」などと言うとき、「スポーツ」という言葉には、単なる身体活動という以上の文化的な意味が込められていることに気づく。それでは私たちが現在「スポーツ」と呼ぶものは、どのような歴史状況の中で、どのような社会的・文化的な背景をもって生まれたのだろうか。

スポーツを初めて学問の対象として取り上げたのは、ユダヤ系ドイツ人の社会学者ノルベルト・エリアスである。エリアスは著書『スポーツと文明化』の中で、近代スポーツ誕生の歴史を、それまでスポーツとは関連づけられて来なかったような事象、たとえば政治の場での権力奪取の方法や、社会全体で共有されていた文化やマナーなど関係づけて論じた。「スポーツ」は18世紀後半から19世紀にかけてのイギリスで生まれたが、その背景には、議会制度の発展にともない、暴力を行使せずに議論を通して合意に達する社会が成立したことや、娯楽を含めて、社会のあらゆる場面で暴力を忌避する「文明化された」心情が生まれたことがあるとエリアスはいう。こういった社会の変化を前提として、暴力を排除し、多くのルールによって規制される「スポーツ」が成立したというのである。

17世紀のイギリスには、ピューリタン革命によって始まり、国王の処刑も含めて、暴力が政治と社会を支配するかに感じられた一時期があった。これをエリアスは「暴力の周期」と呼ぶ。彼の言葉をかりれば、17世紀イギリスで始まった「暴力の周期」は、1721年に（ A ）が首相の座についたときに終わり、ちょうどこの頃、スポーツの条件を備えた最初の娯楽である「狐狩り」が生まれたという。「狐狩り」は、人間が直接手を下さず、ルールに則って犬に獲物を殺させることや、獲物を食べることを目的としないという点で、一般の狩猟とは異なる。そして、議会制度の成立とともに、「狐狩り」をはじめとするスポーツという新しい娯楽の誕生を支えたのは、下院（庶民院）に相当数の代表を送った（ B ）というイギリス特有の地主階層の存在だったと述べている。

ここで、近代スポーツを代表する競技のひとつであるサッカーの誕生について考えてみよう。19世紀になって、暴力を忌避する気分が、エリートだけでなく社会全体で共有されるようになると、それまでの、村ぐるみでボールを奪い合い、死者が出るほどの殴り合いも許された野蛮な「民俗フットボール」は、次第に行われなくなっていく。この頃のイギリスでは産業革命が進展し、（ C ）が進むことにより、フットボールができるような広い共有地が、自由に出入りできない農地となっていった。これも「民俗フットボール」がすたれる原因となったと考えられる。しかしちょうどその頃、ラグビー校など、フットボールを教育に取り入れようとした、いくつかの名門パブリック・スクールがあった。これらのパブリック・スクールにおいてルールが定められ、19世紀後半には、いま私たちが知るような、近代的なサッカーやラグビーへと変化していくのである。当時のパブリック・スクールで目標と

されたのは、「筋骨たくましいキリスト教徒」たるエリート育成であり、この理想が、^③イギリス帝国主義とともに、「スポーツマン精神」として世界に広がっていった。サッカーが19世紀末から20世紀初めに世界へと伝播していった様子は、まさにイギリス帝国主義の膨張の地図と重なっている。

それでは次に、同じ時代のヨーロッパで生まれたスポーツの祭典、オリンピックについて考えてみよう。第1回近代オリンピックは、フランス人（ D ）の提唱により、1896年にアテネで開催された。背景には、19世紀後半の欧米にひろがっていた^④古代ギリシア礼賛という文化潮流と、それを受けての古代ギリシア遺跡の発掘熱があった。（ D ）は、イギリスのパブリック・スクールでのスポーツのあり方に大きな感銘を受けた教育者でもあったが、古代ギリシアのオリンピア競技を「平和の祭典」として理想化し、その再現を訴えたのである。こうしてオリンピックは、当時のヨーロッパの理想主義や国際主義のひとつの表現として誕生するが、彼の主張がフランスで受け入れられた背景には、プロイセン＝フランス戦争後の愛国心の高揚と、青少年の鍛錬のためのスポーツ奨励の機運があったことが否定できない。このように考えると、近代オリンピックは、創設時から、コスモポリタニズムや平和を希求する理想と同時に、ナショナリズムを高揚させ、国家同士が威信をかけて戦う場としての政治的性格をあわせ持っていたと言える。

そもそも古代オリンピックとは、紀元前8世紀頃から紀元後4世紀末まで、4年に一度、（ E ）半島北西部エリス地方のオリンピアで開催されていた祭典で、競馬競技や、円盤投げや短距離走などの五種競技、パンクラティオンと呼ばれる格闘技の間に、百頭の牛をゼウスに捧げる大犠牲式が行われていた。争うことも多かったポリス同士がこの期間中は休戦し、競技と祭典に参加することを通して、同じギリシア人「ヘレネス」であるという意識を育んだ。ただ、パンクラティオンは近代のレスリングからはほど遠い乱暴な格闘技であったし、また、（ F ）のように、ペルシア戦争中の故事に由来するとされた競技も、実は近代オリンピックの開催にあたって考案されたものであることが知られている。

北京オリンピックで問題となった聖火リレーも、実は（ G ）年のベルリン・オリンピックに際して、ナチスの宣伝省によって考案されたものである。オリンピアで点火された聖火がギリシアを出てブルガリア、^⑤ユーゴスラヴィア、ハンガリー、オーストリア、そして（ H ）を通してドイツのベルリンに至るルートは、数年後のドイツ軍による侵略を準備するものだった。またヒトラーはオリンピック競技とメディアを巧みに利用して、ナチス＝ドイツは古代ギリシアの後継者であるというイメージを作り上げ、アーリア人の優越性を内外に宣伝したのだった。ベルリン・オリンピックに反対して、同じ年にスペインのバルセロナで企画された「人民オリンピック」は、直前に（ I ）が勃発したことにより開催に至らず、こうして、ヨーロッパは第2次世界大戦への道を突き進んでいく。

第2次世界大戦後においても、1972年のミュンヘン・オリンピックでのテロ事件や、ソ連の（ J ）侵攻を理由に、アメリカ合衆国や日本など西側諸国が集団ボイコットした1980年のモスクワ・オリンピックなど、オリンピックが政治と深く関わっていることを示す例は、枚挙にいとまがない。

このように考えると、オリンピックのみならず、スポーツというものが、決して政治や社会と切り離された身体活動ではなく、それぞれの時代を映す鏡のようなものであることがわかるだろう。

設問

- ① ナチスが台頭した頃、エリアスを含めて、多くの学者や文化人がイギリスやアメリカ合衆国などに亡命している。同じ頃にアメリカ合衆国に亡命したドイツ人ノーベル賞作家は誰か。
- ② ピューリタン精神に立脚した教会改革論を発表し、ピューリタン革命を熱狂的に支持した詩人で、クロムウェルの政府内でチャールズ一世の処刑を擁護したのは誰か。
- ③ 19世紀後半のイギリスは帝国主義的進出の一方で、白人移住者の多い植民地に対しては、現地の自治政府を通した間接支配を行うようになる。1867年に最初の自治領となった植民地はどこか。
- ④ ギリシア独立戦争の際、「キオス島の虐殺」を題材とした絵を描き、独立運動支援の世論形成に貢献した、フランス・ロマン派を代表する画家は誰か。
- ⑤ 戦後のこの地域で、セルビア人を主体とするセルビア共和国の中であって、アルバニア系住民が圧倒的な多数を占めた自治州で、のちのユーゴスラヴィア内戦では民族紛争の舞台ともなるのはどこか。

IV 以下の(イ)～(ホ)の文章を読んで、下線部①～⑥に関する各設問に答えなさい。

(イ) 人間と他の動物との差異は、言語や道具の使用とともに、① 他者を埋葬することに代表されるような宗教的行為を行うという点にある。人類がHomo Religiosus(宗教的人間)と言われる理由はここにある。約4万年前以降出現した新人は、牛、馬、鹿、猪などの動物の絵画を洞穴の壁面などに描いたが、そうした② 洞穴美術は、生業である狩猟の成就を祈願するパフォーマンスであったと解釈される。狩猟行為を絵画として再現＝現前化することを通して、観念を現実の彼方に投影し平面に画像として表象する作業はまさに、呪術＝宗教的行為の起源を示している、と言える。

① 埋葬を最初に行ったとされる旧人を何というか。

② 旧石器時代末に描かれ、1940年に発見されたフランス南西部の洞穴絵画遺跡の名称は何か。

(ロ) 人々を人生の実存的苦難から解放するための救済宗教が、紀元前5世紀以降、世界のいくつかの地域において誕生してきた。そのさきがけとなった宗教が仏教である。仏教の創始者であるシャカは、③ 当時のバラモン教などの影響を受けながらも、生の無常を指摘し、八正道の実践と④ 生老病死という苦しみから脱するための認識によって、迷いから悟りへと到達する解脱の道の重要性を説いた。シャカの教えに従って出家し解脱を目指したサンガ(仏教教団)は、シャカの没後、⑤ 教義や戒律をめぐって分裂し、その後特にスリランカや東南アジアで発展した。紀元前後には、すべての民衆の救済を目指す新しい仏教である大乘仏教が起こった。大乘仏教は中国、朝鮮半島を経由して日本に伝播されたり、チベットにも伝播し、ボン教と習合して⑥ チベット仏教となったりするなど、アジアを中心として世界に広がっていった。

③ 輪廻転生観を構成する基本的観念で、自己の現世の苦しみを規定する過去の行いを何というか。

④ この認識を何というか。

⑤ このように分裂した仏教の自称とは何か。

⑥ チベット仏教の教主であり、インドに亡命した現代チベットの最高指導者は誰か。

(ハ) 仏教と同様、救済宗教として世界中に伝播された宗教がキリスト教である。キリスト教は1世紀に、イエスの教えと実践を基盤としてパレスチナに誕生した。ユダヤ教指導者の律法や儀礼に関する形式主義を批判したイエスは、神の普遍的愛と隣人愛を説いたが、十字架にかけられて処刑された。その後、イエスの復活と、イエスの十字架上での死が人類の罪を贖ったとする諸信念を基に、初期キリスト教会が使徒パウロらの布教活動によって成立した。そして、迫害に会いながらもキリスト教はローマ帝国にも浸透していった。4世紀になると、キリスト教はローマ帝国で公認され、同世紀末には^⑦国教となり、その後、ヨーロッパ全土や、エチオピアや^⑧エジプトなどのアフリカ北部にも拡大し、現在のような世界宗教に発展した。

⑦ キリスト教を国教化したローマ皇帝は誰か。

⑧ 6世紀以降、キリストに神性のみを認める単性論派がエジプトで創始し、現在も存続する教会の名称は何か。

(ニ) キリスト教成立から約600年後、7世紀初頭、アラビア半島のメッカで生まれた救済宗教がイスラーム教である。イスラーム教の創始者である預言者ムハンマドは、『旧約聖書』と『新約聖書』を『コーラン（クルアーン）』に先行する神の啓示書として認めると同時に、ユダヤ教とキリスト教の預言者も自らに先行する預言者として認めた。イスラーム教、キリスト教、ユダヤ教の三つの宗教は同じ神を信奉するセム系の兄弟の宗教であるが、イスラーム教には、六信と^⑨五行と呼ばれる義務や、ユダヤ教やキリスト教のような^⑩聖職者身分がないという点などの特徴がある。アッラーとの直接的な関係性を重視するシンプルな信仰的特徴が人々を惹きつけ、世界宗教として大きく成長した。

⑨ 五行のひとつである断食を行わなければならないイスラーム暦第9月の名称は何か。

⑩ 聖職者の代わりに、シャリーアの執行や解釈に従事するイスラーム学者を何というか。

(ホ) 中国の宗教史が語られるとき、淫祀いんし邪教という表現があるのに気づく。「淫祀」は『礼記』にある表現「祭るべきではないものを祭る」を根拠にしている。儒教が国家の公認宗教となった以降に、王朝が定めた祭るべき対象としての天地・太陽などの神々や孔子などの特定の人物など、祀典に記載された対象以外を祭ることである。また国家の行う祭祀は皇帝や官僚によって実施されたが、それ以外の者が分を越えて行う祭祀も淫祀とされた。したがって、公認された仏教、道教の教団以外の民間の信仰は、その多くが淫祀に分類されたのである。

これに対して、儒教や国家祭祀の正統性を侵すとみなされた宗教の教えは、国家の支配体制を揺るがす恐れがあるために「邪教」として厳禁された。^⑪ 2世紀後半には、王朝の権力打倒を目的にした宗教結社が知られ、農民がまとった頭巾の色にちなんで名づけられた乱において指導理念となり、また後には道教の源流の一つとなった。

仏教が伝わって以降には新しい理念が「邪教」の教義形成に関わるようになった。仏教の弥勒下生信仰は、シャカ仏の入滅後の遠い将来に弥勒仏が地上に現れて衆生を救うと説くが、これを民間では、ただちにあるいは近未来に弥勒仏が現れてこの世の苦しみを救済すると解釈を変えたので、王朝権力と支配体制の否定に利用されるとみなされて、こうした信仰は邪教と呼ばれた。

12世紀に、^⑫ 西方浄土への往生を祈願する信仰と結合した弥勒信仰は、次の王朝の末期には宗教結社を成立させて、王朝に対抗する民衆反乱を発生させた。「天下大乱、弥勒仏下生」の標語を掲げて活動していた宗教指導者であった韓山童の配下から、^⑬ 貧農出身の乞食僧が急速に頭角を現してやがて皇帝となったように、仏教的な理念が大きな契機となって一つの朝廷の支配を揺るがせ、やがて崩壊させたのであった。

この倒された前王朝では、歴代皇帝が保護した宗教のほか、泉州や広州にモスクを有したイスラーム教や、^⑭ 13世紀の末にやってきた修道士に率いられて布教をしたカトリック、そして民間に定着していた仏教が信仰されていた。ラマ教への狂信と寺院建造に莫大な経費を費やして財政窮乏を導いた朝廷は民衆の生活を苦しめ、天災や飢饉が加わって社会不安が増大していたことが、^⑮ 民衆の宗教的反乱を成功させて新王朝を成立させたのであった。

⑪ この宗教結社は何と呼ばれるか。

⑫ この信仰は何と呼ばれるか。

⑬ この人物は誰か。

⑭ この修道士は誰か。

⑮ この反乱の中心になった宗教結社は何と呼ばれるか。

平成21(2009)年度 文学部 問題訂正

教科・科目	誤	→	正
世界史	p.9 IV－(イ) 2行目 ・ <u>H</u> omo <u>R</u> eligiousus	→	・ <u>h</u> omo <u>r</u> eligiousus
世界史	p.10 5行目 ・ 会い	→	・ 遭い